

新型コロナウイルス感染症対策について

日本スポーツマスターズ（以下、「マスターズ」）の開催にあたっては、すべての参加者個々人が、感染予防対策を確実に実行することが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の基本となります。

マスターズに参加・参画するすべての方には、マスターズを開催するという、社会的な意義とそれに伴う責任を十分に理解の上、スポーツ界のみならず、国民の信頼を損なわないための自覚と行動をお願いいたします。そして、選手らに感染リスクを高めない競技会を提供できるよう、関係するすべての人々が最大限の努力を行うことを求めます。

また、マスターズに参加・参画するすべての方は、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を入手し、感染者・濃厚接触者・感染疑い者等に対する誤解や偏見に基づく差別を行わないことを求めます。

以下の事項を感染予防対策の基本とし、主催者は様々な場面において予防対策の確実な実施に向け準備・運営にあたります。

〈マスターズにおける共通予防対策〉

- 手指衛生の励行
- 競技及びウォームアップ実施時以外、常時マスクの着用
- ソーシャルディスタンスの確保
- 「3密」（密閉空間・密集場所・密接場面）の回避
- 禁煙の推奨
- 毎日の健康と行動の記録（体調管理アプリ「GLOBAL SAFETY」の利用又は体調管理チェックシートの記入）の事前提出・必要に応じた事後報告
- 体調不良の場合（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）の参加自粛
- 大声での会話・応援の自粛
- 接触確認アプリ（COCOA）の利用推奨
- 大会期間中の会食の自粛・食事中の会話の自粛
- 選手、関係者、観客などのゾーニング確保・エリアコントロールの徹底
- 諸室、共用物品の消毒の徹底
- 大会参加にあたり不安がある場合、参加自粛
- ワクチン接種の推奨

マスターズにおける競技会運営上の重点対策

1) 全般／会場地入りまで

- ・毎日の健康（起床直後の検温等）と行動の記録を習慣とする。また、マスターズ参加時は最低でも会場地入り14日前から会場地出14日後までの健康状態、行動内容を体調管理アプリまたは体調管理チェックシートに記録し、主催者対策室等からの求めがあった場合は、速やかにその内容を提出する。なお、記録された内容により、主催者（運営者）から事前に大会への出場・来場を断る場合がある。
- ・各参加カテゴリーの参加者の健康状態、行動内容は、各参加カテゴリーの責任者（管理責任者）が常に把握、管理する。
- ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる者がいないか常に確認する。
- ・スマートフォン利用者については、原則として、マスターズ参加申込時に、厚生労働省の「新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）」をインストールの上、利用状態にし、常に携帯する（競技実施等に支障がある場合は除く）。

- ・会場入り前に体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）が出現した場合、平素の活動を中止し、かかりつけ医等の最寄りの医療機関又は受診・相談センターに電話相談の上、必要に応じてPCR検査等を受ける。

・感染者への対応

【症状がある場合】

- ①発症日（症状が出現した日）から10日間以上かつ症状軽快後72時間経過後は、大会参加を認めても構わない。
- ②発症日（症状が出現した日）から10日間経過以前に症状軽快した場合に、症状軽快後24時間経過した後に、PCR等の検査を行い陰性が確認され、その検査の検体を採取した24時間以降に再度検体採取を行い、陰性が確認された場合は、大会参加を認めても構わない。

【症状がない場合】

検体採取日（陽性確定に係る検体採取日）から7日間経過した場合は、大会参加を認めても構わない。

【無症状者が途中症状が出た場合】

当初無症状の人であっても、途中で症状が出現した場合は、発症日は起算日として10日間以上経過後は、大会参加を認めても構わない。

・濃厚接触者への対応

発端となる同居の感染している者が発症する等してから5日間経過している場合は大会参加を認めても構わない。ただし、2日目と3日目に抗原定性検査キットを用いた検査で陰性が確認できた場合は、3日目で大会参加を認めても構わない。

※上記のいずれの場合でも、自宅待機期間が終了した後も7日間が経過するまでは、検温など自身による健康状態の確認や、高齢者や基礎疾患を有する者等感染した場合に重症化リスクの高い者との接触、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避け、マスクを着用すること等の感染対策を徹底する。

・感染疑い者（体調不良〔例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常など〕の症状があり、PCR検査又は抗原検査で「陰性」であった者、もしくは医療機関を受診しなかった者）への対応

会場入り前の14日前の時点又はそれ以降に感染疑い症状が発症していた場合、インフルエンザ等の新型コロナウイルス以外の感染症のリスクもある為、原則当該選手は参加を辞退する。または、主催者（運営者）は参加を取り消す。

但し、次のA.及びB.の両方の条件を満たしている場合、大会への出場を認めても構わない。

A. 感染疑い症状の発症後に少なくとも8日が経過している（8日が経過している：発症日を0日として8日間のこと）。

B. 薬剤を服用していない状態で、解熱後及び症状消失後に少なくとも72時間が経過している。

なお、上記A. B.を満たさない場合であっても、薬剤を服用していない状態で感染疑い症状が消失し、新型コロナウイルスの感染リスクが低いこと（注1）（注2）を示す医師の診断書があれば、出場（来場）可能。主催者への報告が必要。PCR検査等が推奨される。

（注1）：「新型コロナウイルスの感染リスクが低いこと」を示すため、PCR検査等が推奨される。

（注2）：「新型コロナウイルスの感染リスクが低いこと」には、新型コロナウイルス感染症以外の傷病も考えられる。

- ・会場地に向けて自宅（又は準ずる拠点地）を出発する前に検温を行う。
- ・喫煙は重症化のリスク因子と考えられているため、禁煙を強く推奨する。

- ・感染等で外出を自粛していた直後の大会参加に際しては、体調に十分注意し、怪我が起こらないようにする。

2) 会場地入りから競技会期間中

- ・ 宿舎出発前に検温を行い、健康状態を記録する。
- ・ 公共交通機関を利用する場合は、感染予防の観点から、移動中のマスクの着用、手指衛生の徹底、必要に応じた換気の実施、必要以上の会話や飲食は避け、さらに可能な限り座席をまとまって搭乗、乗車し、一般客との接触を避ける。
- ・ 部屋割りには、一人部屋が望ましいが、困難な場合は、極力少人数の部屋割りとなるよう配慮する。複数人での利用の場合、室内では常時マスクを着用することが望ましい。
- ・ 部屋の換気を良くする。推奨されている室内湿度である50～60%に保つよう心掛ける。
- ・ 食事の時は、一同に集まるのではなく、時間差をつけて、距離（できるだけ2m、最低1m）を空けられるようにし、必要以上の会話は控える。
- ・ 食事の際は、宿舎からの指示等に従い、感染のリスクを低減するよう努める。
- ・ 宿舎共用部（例：エントランスなど）では、混雑が起こらないよう譲り合って使用するとともに、人数制限など宿舎からの指示等に従う。
- ・ ミーティングなどは、ビデオ会議（オンラインミーティング）を活用し、選手らの接触を、極力避ける。対面で実施する場合は、部屋の広さ（参加者間ができるだけ2m、最低1m）や換気に留意し、「3密」の状態とならないようにする。
- ・ 体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）を訴える者が出た場合は、即座に個室に隔離し、競技会運営責任者（中央競技団体、開催地競技団体）に連絡の上、医療機関を受診させる。
- ・ 宿舎の大浴場を利用する際は、3密を防ぎ、個々人の利用時間を短くし、速やかに退室するように心がける。
- ・ 競技会場では、設置された消毒液の使用やこまめな手洗いなどによる手指衛生の徹底を図る。
- ・ 競技会場内での移動や待機時は、マスクを着用する。
- ・ 競技会場入場時、体温測定を行う。
- ・ 体調管理アプリの提示、又は体調管理チェックシートを提出する。
- ・ ロッカー（更衣）室や選手参集・待機所、コーチングエリアなどでは、主催者（運営者）の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。また、不要な会話・接触は控える。
- ・ 水分補給のためのペットボトル等の共用はしない。また、ペットボトル等は所有者が分かるよう記名や目印を記すようにし、他者から触れられないようにする。
- ・ 観戦する場合は、主催者（運営者）の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。また、声援や掛け声は、極力、避けるよう努める。

3) 競技会期間終了後

- ・ 会場地出発前に体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）がないか確認する。
- ・ 移動に際しての留意事項については、「2）会場地入りから競技会期間中」同様の対応を行う。
- ・ 帰宅（又は準ずる拠点到着）時に検温を行う。

- ・健康（起床直後の検温等）と行動の記録を怠らず、万が一体調不良（例：発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚の異常など）となった場合や、新型コロナウイルス感染者となった場合は、医療機関、保健所等の指示に従うとともに、各参加カテゴリーに応じた責任者（所属都道府県競技団体等）を通じ、主催者（運営者）に速やかに報告する。関係者は感染者のプライバシー保護に努める。